

1. 件名：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構大洗研究所及び核燃料サイクル工学研究所における雨水浸入についての面談

2. 日時：令和5年6月9日(金) 15時30分～17時10分

3. 場所：テレビ会議

4. 出席者：

原子力規制庁（以下「規制庁」という。）

長官官房 総務課 事故対処室

山口室長、田村室長補佐、有田係長

原子力規制部 検査グループ 核燃料施設等監視部門

栗崎企画調査官、石井主任監視指導官、木村管理官補佐

長官官房 放射線防護グループ 監視情報課

渡邊課長補佐、田村専門職

東海・大洗原子力規制事務所

水野所長、足立副所長、鈴木原子力運転検査官、片岸技術参与

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）

大洗研究所 放射線管理部 環境線計課長 他4名

核燃料サイクル工学研究所 工務技術部 次長 他6名

安全・核セキュリティ統括本部 安全管理部 危機管理課長 他2名

5. 要旨

(1) 規制庁は、原子力機構より、6月2日～3日に発生した大雨に伴う大洗研究所及び核燃料サイクル工学研究所の雨水浸入について、配付資料に沿って、説明を受けた。

(2) 規制庁から主に以下を指摘した。

(資料1)

○ 大雨の予報が出た時点で、事前に何らかの対策を行っていたのか。

○ P-11、P-12、P-13、電源の関係が不明確なので、別途、系統図を示すこと。

(資料2)

○ 6月2日～3日に大雨が降り、同じ大洗研究所内のモニタリングポストやJMTRでトラブルが発生しているにも関わらず、6月5日から点検を開始したのは何故か。

(資料3)

○ 令和元年の台風時にも同様の事象が発生しているが、既設ポンプの排水能力の増強等の対応は行ったのか。

(資料4)

○ 既設の堰が設置されているにもかかわらず、滞留水が浸入しているのは

何故か。対策は行わないのか。

(全般)

- 自然災害に係るトラブルは社会的に関心が高く、規制庁としても迅速に状況を把握したい。法令報告事象に該当しないものであっても、夜間休日を問わず、前広に且つ適時に、規制庁に連絡すること。

(3) 原子力機構から、主に以下の回答があった。

(資料1)

- モニタリングポストの局舎では、設置以降、今回のような大雨による浸水、モニタリングポストの停止が発生したことがなかったため、事前の対策は行わなかった。
- 系統図を後日、提出する。

(資料2)

- 台風などの風水害が予想される際は、警戒態勢を取ることとしているが、今回は、大雨の予報だったので、翌営業日の6月5日から点検を開始した。

(資料3)

- 既設ポンプの排水能力の増強は行っていない。巡視の強化と可搬型ポンプにより対応している。

(資料4)

- 堰のゴムの劣化が原因と推定している。対策については、ケーブル貫通部の止水を優先し、堰については今後検討する。

(全般)

- 承知した。

6. 配付資料

- 「資料1 大雨によるモニタリングポストの一部停止について」
- 「資料2 廃棄物管理施設のα固体処理棟への雨水浸入について」
- 「資料3 大雨によるJMTR施設・Bトレンチの浸水について」
- 「資料4 再処理施設分離精製工場地下階への雨水浸入について」